

2023年6月

令和5年度

四万十町チャレンジ講座

第1回 ビジュアルレポート

作成：

高知大学 地域協働学部 コミュニティデザイン研究室



- 日時：令和5年6月3日（土） 13:00～18:00
- 会場：四万十町農村環境改善センター 2階 大会議室
- 主催：四万十町・高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室
- 実施内容：「ずっと思い続けていた夢」や「好きだったけれどいろんな理由で諦めてしまったこと」、「ずっと心の中に引っかかっていたのに見て見ぬふりをしてやり過ごしてきてしまったこと」そういった思いを持っている方々を対象に全4回のチャレンジ講座を開催。「本当のわたし」から発せられる思いに対して、周りの目や評価を気にしないで「正直に向き合い、仲間と共に一歩踏み出してみる。」そんなきっかけづくりを行うことを目的とする。

【タイムライン】

Time	Theme	Contents
13:00-13:15	オリエンテーション	・ 今回の講座の目的・ねらいの説明および講師紹介
13:15-13:30	チェックイン	・ 参加者の自己紹介 気持ち 期待の発表
13:30-13:40	講座の進め方	・ 今回の講座の進め方についての説明
13:40-14:50	キーノートスピーチ	・ 田端将伸氏（横瀬町役場職員）
15:00-18:00	マイプロジェクトシェア	・ それぞれのプロジェクトの共有

Let's

令和5年度
四万十町チャレンジ講座

～自分と向き合い、「一歩」を踏み出そう！～

託児
あります

ずっと **思い続けていた夢** や、
好き だったけれどもいろんな理由で諦めてしまったこと。
ずっと **心の中に引っかかっていた** のに見て見ぬふりをして、
やり過ごしてきたこと。

「**本当のわたし**」から発せられる **想い** に対して、
周りの目や評価を気にしないで **正直に向き合い**、**仲間と共に一歩踏み出してみる**。
そんな **きっかけづくりを行うことを目的** として開催されます。

こんな人におすすめ！

やりたいことを
見つけたい人

自分1人では
勇気がないが、
誰かと一緒に
やりたいことを
一歩踏み出したい人

将来のこと、
夢を見つけない人

自分の好きなこと、
やってみたいことを
実現したい人

スケジュール・内容

※会場は四万十町内となり、申込者に別途ご連絡いたします。

1 6/3(土) 13:00-18:00

「自分の棚卸しを行い、
自分の想いを知る」

ゲスト講師：田端 将伸 氏
(横瀬町役場職員)

自分のライフストーリーを共有し、受講者同士の対話を通じて、一人ひとりが自分自身の興味関心や大切にしたい価値観、自分自身の想いや原体験、問題意識に気づき、どう在りたいのか、どう生きていきたいのかに対する深い気づきを得ていきます。

3 7/29(土) 13:00-18:00

「小さな一歩を踏み出し、
気づきを深める」

ゲスト講師：小笠原 舞 氏
(保育士起業家/合同会社こどもみらい探求社 共同代表/asobi基地 代表)

マイプロジェクトに小さく取り組み、そこから得られた気づきや学びを受講者同士で共有し、プロジェクトをより具体的なものに修正していきます。

2 7/1(土) 13:00-18:00

「自分と紐づいた
マイプロジェクトを描く」

ゲスト講師：丑田 俊輔 氏
(ハバタク株式会社代表取締役/シェアビレッジ株式会社代表取締役)

興味関心があること、気になっていること、ずっとやってみたいかったこと、こんなことをしてみたいと思っていることをプロジェクトとして描き、対話を通じて、自分との関係性やなぜそのプロジェクトに取り組みたいのかを丁寧に見つめ直していきます。

4 9/2(土) 13:00-18:00

「自分のチャレンジを宣言する(最終発表会)」

3か月間の学びと行動を踏まえ、これから自分自身がどんなマイプロジェクトに取り組んでいきたいのか、その背景にある想い、そして、どう在りたいのかを発表します。

主催：四万十町
協力：高知大学地域協働学部 コミュニティデザイン研究室

講座の進め方

参加者同士の
アクションと気づきをシェア

近況・アクションの共有

最近気になっていることや悩み、行ったアクションやそこから得られた気づきを受講者同士で共有し、相互に支え合う関係づくりを行います。

ゲストからの
お話

原体験・想い・価値観の共有

“私”を主語に自分らしい生き方をしているゲストのライフストーリーや大切にしている価値観、活動の背景にある想いを知る

参加者同士の
対話

自分と仲間を知る

対話を通じて、一人ひとりが自分と向き合い、仲間と向き合い、多様な価値観や考え方を共有することで気づきと学びを深めていきます。

ゲスト講師紹介

第1回

田端 将伸 氏
(横瀬町役場職員)



1974年、横瀬町生まれ横瀬育ち。地元の工業高校卒業、町内回覧で募集のあった横瀬町役場に勤務。地方公務員となる。税務課固定資産税担当、総務課財政担当、振興課観光担当を経て、まち経営課で民間・団体等との新しい関係性を築くための仕組み、官民連携プラットフォーム（通称：よこらぼ）の担当として現在に至る。ほか、劇団天末線で役者を演じたり、消防団をはじめとした地域の活動にも力を注ぐ。好きな言葉は「すべての原因は自分に」

第2回

丑田 俊輔 氏
(ハバタク株式会社代表取締役/
シェアビレッジ株式会社代表取締役)



福島県会津若松市生まれ。慶応大学商学部在学中にプラットフォームサービス系の立上げに参画。公共施設をまちづくり拠点として再生する「ちよだプラットフォームスクウェア」、日本IBMを経て、2010年にハバタクを創業、国内外を舞台に様々な教育事業を展開。2014年、秋田県五城目町に移住。田舎発起業家を育む「ドチャペン」、古民家を舞台に地域を繋ぐ「シェアビレッジ」、遊休施設を遊び場化する「ただのあそび場」、住民参加型小学校建設「越える学校」支援等を推進。2021年、共創型コミュニティプラットフォーム「Share Village」を公開。

第3回

小笠原 舞 氏
(保育士起業家/
合同会社こどもみらい探求社 共同代表/
asobi基地 代表)



大学では福祉を学び、社会人経験を経て、保育士となる。こどもたちから得た学びを広げることが、「Well-being＝誰もがよりよく生きる社会」につながると思い活動中。2012年 子育てコミュニティasobi基地を、2013年には合同会社こどもみらい探求社を設立。2020年には、自主事業「おやこ保育園」をオンライン化し、全国の親子を対象に新しい子育て支援インフラを作っている。
著書：「いい親よりも大切なこと～こどものために”しなくていいこと”こんなにあった～」

講座概要

- 募集人員 10名程度を予定
- 受講料 無料
- 申込方法

右下のQRコードを読み込んで申込フォームから応募いただくか、
お電話・メールにて **5月26日(金)** までに事務局にお申し込みください。
●その他
・全講座に参加できる人を優先させていただきます。
・講座内容及び開催場所に関する詳細情報は、受講生のみへ通知いたします。

【事務局】

四万十町役場人材育成推進センター（担当：中井智之・吉村愛）
〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榑山町3番7号
E-mail：103060@town.shimanto.lg.jp
TEL：0880-22-3163
FAX：0880-22-3345

お申し込みは
こちら



テーマ

6/3（土）
「自分の棚卸しを行い、
自分の思いを知る」

7/1（土）
「自分と紐づいた
マイプロジェクトを描く」

7/29（土）
「小さな一歩を踏み出し、
気づきを深める」

9/2（土）
「自分のチャレンジ
を宣言する」

ゲスト



田端 将伸 氏
(横瀬町役場職員)



丑田 俊輔 氏
(ハバタク株式会社代表取締役/
シェアビレッジ株式会社
代表取締役)



小笠原 舞 氏
(保育士起業家/
合同会社こどもみらい探求社
共同代表/
asobi基地 代表)

最終発表会

内容

自分のライフストーリーを共有し、受講者同士の対話を通じて、一人ひとりが自分自身の興味関心や大切にしたい価値観、自分自身の想いや原体験、問題意識に気づき、どう在りたいのか、どう生きていきたいのかに対する深い気づきを得ていきます。

興味関心があること、気になっていること、ずっとやってみたかったこと、こんなことをしてみたいと思っていることをプロジェクトとして描き、対話を通じて、自分との関係性やなぜそのプロジェクトに取り組みたいのかを丁寧に見つめ直していきます。

マイプロジェクトに小さく取り組み、そこから得られた気づきや学びを受講者同士で共有し、プロジェクトをより具体的なものに修正していきます。

3か月間の学びと行動を踏まえ、これから自分自身がどんなマイプロジェクトに取り組んでいきたいのか、その背景にある想い、そして、どう在りたいのかを発表します。

四万十町役場

高知大学
地域協働学部
コミュニティデザイン研究室



須藤 順

学生メンタ □



柳原伊吹
修士課程1年生



西上一成
学部4年生



杉田珠夢
学部3年生



田村敢
学部3年生



奈良可南子
学部2年生



濱口桃菜
学部2年生



足立風薫
学部1年生

1人ひとりが自分と向き合い、
一歩踏み出すきっかけづくりを行う
学びの場

ピアメンタリング

参加者同士の
アクションと気づきをシェア

近況・アクションの共有

最近気になっていることや悩み、行ったアクションやそこから得られた気づきを受講者同士で共有し、相互に支え合う関係づくりを行います。

インプット

ゲストからの
キーノートスピーチ

原体験・想い・価値観の共有

"私"を主語に自分らしい生き方をしているゲストのライフストーリーや大切にしている価値観、活動の背景にある想いを知る

ダイアログ（対話）

参加者同士の
対話

自分と仲間を知る

対話を通じて、一人ひとりが自分と向き合い、仲間と向き合い、多様な価値観や考え方を共有することで気づきと学びを深めていきます。

1

一人ひとりが自分の経験の中から、好きなこと、やってみたいことを明確にし、一歩踏み出す。

2

自分のプロジェクト（やりたいこと）を仲間と共にチャレンジする。

- 1 安心・安全の場をみんなで創ろう
- 2 ありのままの自分を素直に出そう
- 3 仲間・プロジェクトを評価しない
- 4 プロジェクトは変わってOK
- 5 お互いに貢献し合う

自分に基づいた（M y）
「何かを、プロジェクトの形にして（pjt）やってみる」
ことから始まる、自分や世の中の変化の物語

自らの経験の中から、
自分のミッションを生み出していく

1

マイプロシート
(me&pjt編)を
みんなの前でシェア



2

みんなから
フィードバック



3

プレゼントカードを
書いて渡す



4

アクションを
してみる



5

気づきを踏まえ
シートを
書き換えてみる



※みんなで支え合いながら、
このサイクルを超高速で回していく

【me編シート】

- ・自分のライフヒストリーや好きだったこと、楽しかったこと、つらかったことなど
 - ・自分の人生をグラフにしてみる
 - ・普段見せない自己紹介

マイプロ
Me編

名前（ニックネーム、読んでほしい名前、その由来）

作成日：
場所：

似顔絵・写真

みんなが知らない自己紹介

自分ヒストリー
昔（～小学校）

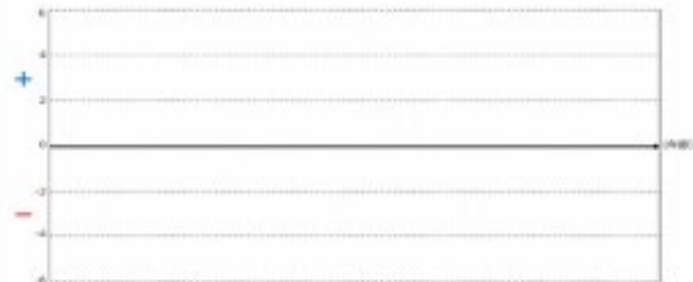
（～中学・高校）

（～専門・大学）

（～現在）

今

人生グラフ：横軸は年で、縦軸はイキイキ度(幸せ度)。人生で輝いていた時、沈んでいた時を見える化しよう！



みんなが知らない自慢・一発芸・得意技

マイプロジェクトの源泉へ

【project編シート】

- ・自分と紐づいたプロジェクトを書き出す
 - ・それは誰にどんな価値を生み出すのか

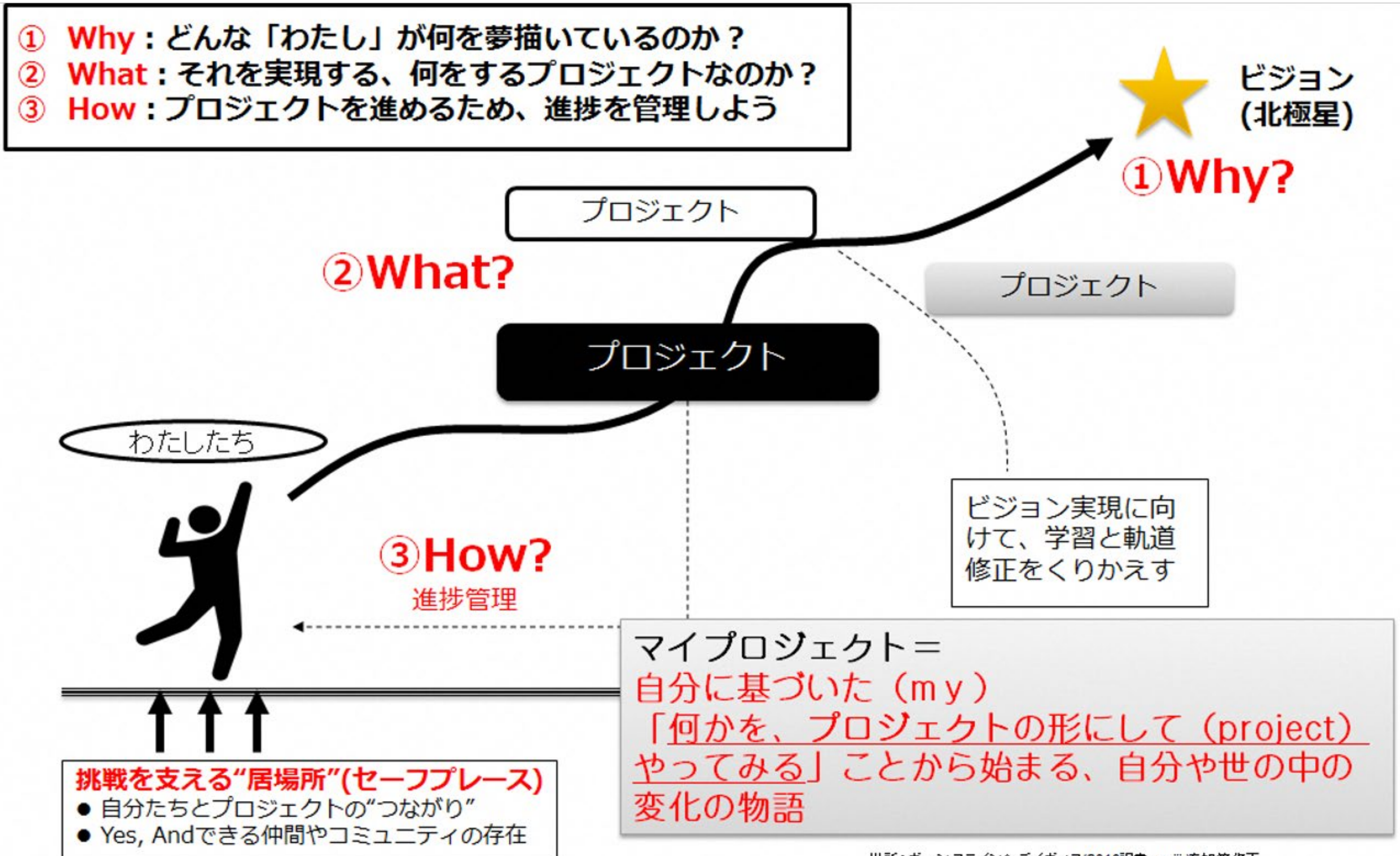
PROJECT編

わたしのプロジェクト(マイプロジェクト)を一言で！

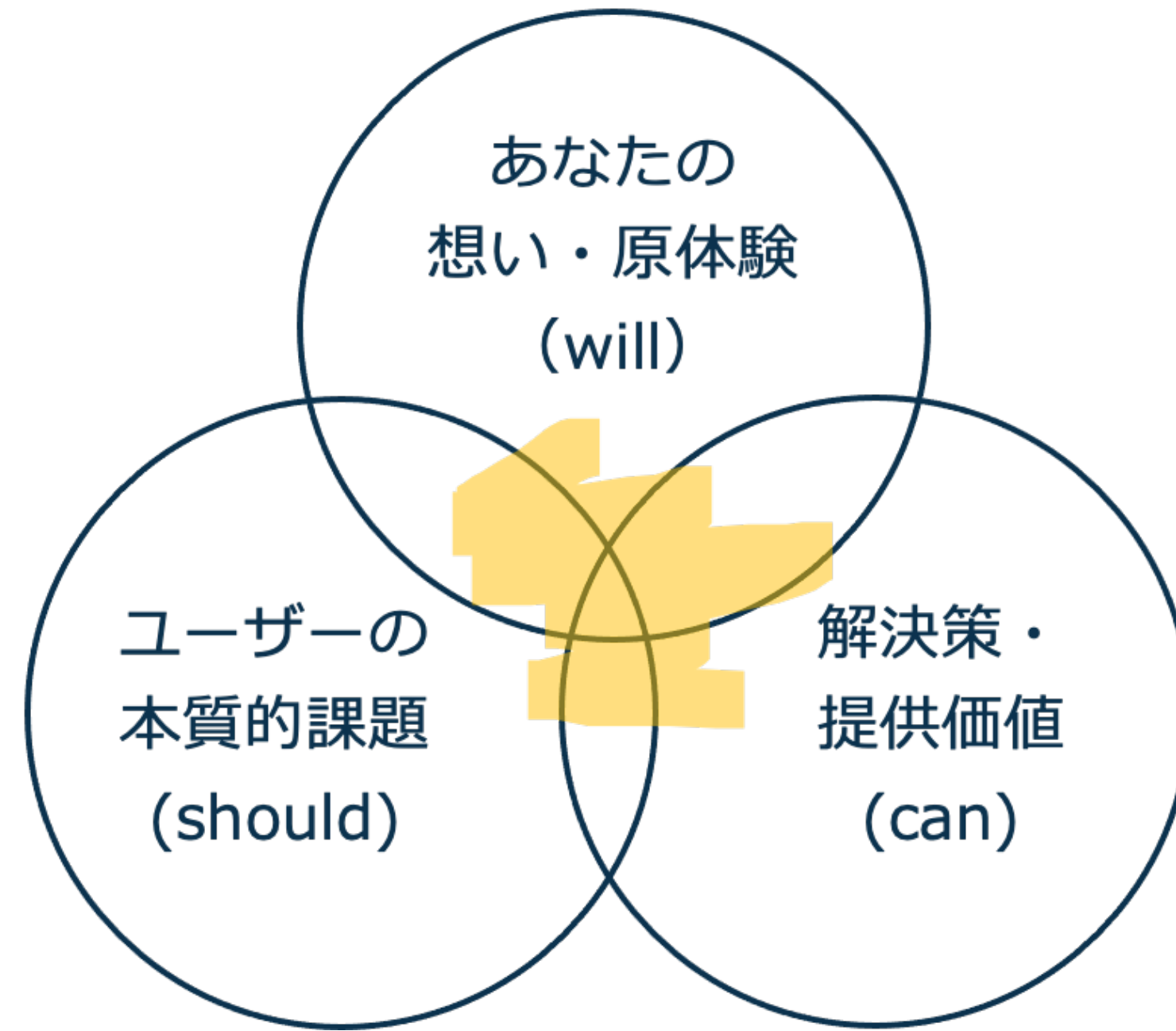
■実践したいプロジェクトの概要

■「やってみよう！」と思った、理由や背景、原体験

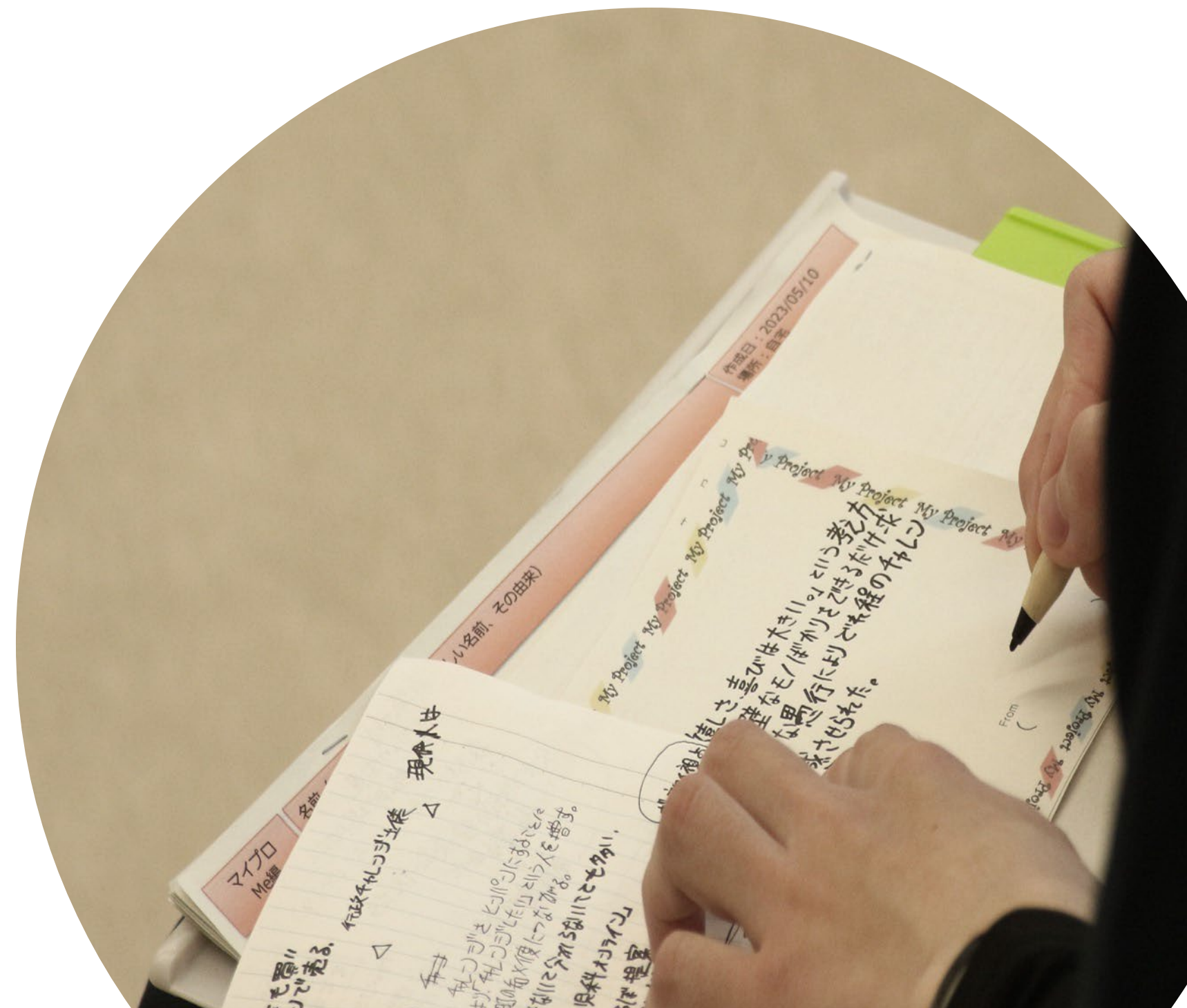
■「誰」にどんな価値を生み出しますか？



出所: ボーンステイン& デイヴィス(2010訳書, p.100) を加筆修正
※ 井上英之作成



講座の様子



最初に四万十町役場の吉村氏から講座を開催するにあたっての挨拶が行われた。続いて、須藤から講座の概要について説明が行われた。その後チェックインとして「名前、所属、今の気持ち、期待」を一人ずつ共有した。第1回目の講座ということもあり、「緊張している」と話す受講生が多かったが、講座に対して前向きな期待や意気込みについて話す方もいた。初めて講座に参加する方だけでなく、7年間参加し続けている方もいた。今までの「地域イノベーター養成講座」を「チャレンジ講座」にリニューアルした事で新鮮な空気感と新たな気持ちで頑張ろうと意気込む雰囲気であった。



自己紹介を聞く受講生の様子



須藤からのレクチャー



チェックインの様子



会場の様子



講座開始の挨拶をする吉村氏



レクチャーに耳を傾ける受講生

キーノートスピーチでは、田端将伸氏より「一チャレンジし続ける横瀬町の取り組みでやる気をだせー」についての講義が行われた。

田端将伸（埼玉県横瀬町役場職員）

1974年、横瀬町生まれ横瀬育ち。地元の工業高校卒業、町内回覧で募集のあった横瀬町役場に勤務、地方公務員となる。税務課固定資産税担当、総務課財政担当、振興課観光担当を経て、まち経営課で民間・団体等との新しい関係性を築くための仕組み、官民連携プラットフォーム(通称:よこらぼ)の担当として現在に至る。ほか、劇団天末線で役者を演じたり、消防団をはじめとした地域の活動にも力を注いだりしている。好きな言葉は「すべての原因は自分に」。また、第二の肩書として、失敗推進係長という肩書も持っている。

◆横瀬町について

横瀬町は埼玉県の北西部に位置する町であり、人口減少が続いている。東京への通勤圏でもあることから職場は東京にあるが、家は横瀬町にある人も多い。セメント産業が主要産業で、町の中ではこれに付随した産業が盛んである。小さな町ではあるが、様々な地域活動が行われていて、町民運動会では町長も競技に参加するという。そのほかにも町民たちが交流を行ったりする機会が多いのが特徴である。

◆なぜ横瀬町はチャレンジし続けるのか？

チャレンジし続ける理由として、「予見できない未来に備える」と語っていた。町の人口は減っていくことは統計調査からもわかっているからこそ、「予見できる未来」には確実に備えて、「予見できない未来」に対しては数値などを用いず、達成目標のみを考えていくという考え方を軸に置いている。そして施策の中で、詳細は役場の担当課が「自分事」として考えていくと語っていた。また、まちでは7本の柱を作っていて、縦割りであった役場の仕事を横にしていき、横の柱をもって職員の能力を伸ばしている。また、柱の最上位には「チャレンジし続ける町」というスローガンを置き、町に新たな変化や価値を生み出そうとしている。

◆町の取り組み具体例

よこらぼとは2016年から行っている取り組みで、事業や企画などのチャレンジを行う際の場所として町の間所を提供し、横瀬町で様々なプロジェクトを行ってもらおうというものである。毎月3件の新企画が町に提案され、役場での選考をクリアした1.6件がプロジェクトとして動く。この取り組みは「チャレンジする町」としての知名度を上げるきっかけとなり、先進的な取り組みが横瀬町から生まれる要因である。よこらぼは代表的な取り組みの1つであるが、ほかにも関係人口創出プロジェクトや地域商社ENgaWA、コワーキングスペースの運営などの取り組みを行い、人々がこの町でチャレンジすることで、町全体に活気や豊かさをもたらしている。



話をする田端氏



スピーチ後の交流

最初に、須藤からマイプロについての説明を行った。続いて、ロールモデルとして学生メンターが発表を行った。その後、受講生による発表が行われ、慣れないマイプロ発表に戸惑いながらも自分について真剣に語っていた。発表後に受講生から質問が行われ、質問に答える中で自己の新たな一面に気付いていた人もいた。「他の受講生の質疑応答を聞いていると自分と重ねてしまってとても共感した」との声もあり、自分の発表だけでなく、マイプロワーク全体を通して自己に新たな気づきを得ている受講生が多くいた。最後にはそれぞれの発表者にプレゼントカードを記入し、講座終了後にプレゼントカードを交換した。



受講生の発表



発表後の質疑応答



須藤によるマイプロのレクチャー



学生のマイプロ発表



発表を聞く様子

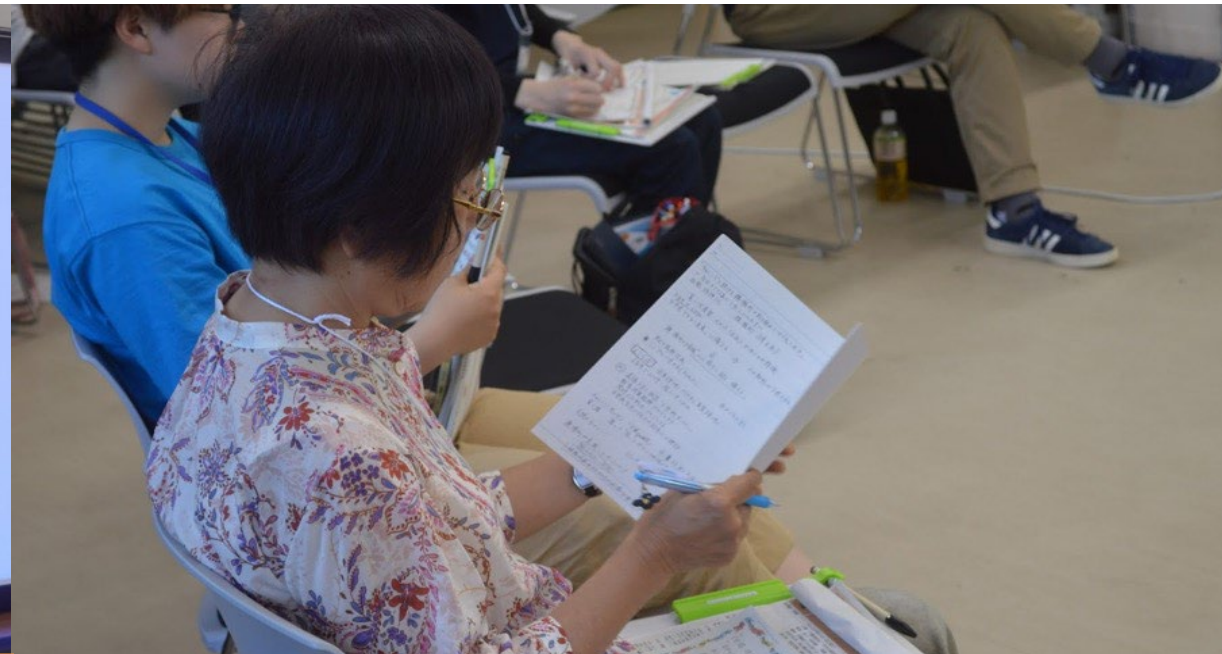


メッセージカードの記入

受講生のマイプロの発表が終わった後は、全体で講座の振り返りを行った。マイプロを行った感想として、「子育てに追われて自分を見つめ直す時間、自分優先の時間がなかった」、「自分を見つめ直せたことでスッキリしたし、新たなものが見えた気がする」というコメントがあった。また、講師の須藤からは継続して行うマイプロジェクトの例が紹介された。その後四万十町役場の吉村氏より次回講座の日程と説明が行われた。講座の終了後は受講生同士でプレゼントカードを交換しあった。最初と比べ、受講生同士が打ち解けているように感じられた。



次回講座の連絡をする吉村氏



メモを取る様子



須藤によるレクチャー



講座終了後の様子



メッセージカードの交換



講座終了後の交流

問い合わせ先

四万十町役場人材育成推進センター

担当：中井智之・吉村愛

〒786-0008 高知県高岡郡四万十町榑山町3番7号

E-mail：103060@town.shimanto.lg.jp

TEL：0880 - 22 - 3163 FAX：0880 - 22 - 3345

高知大学地域協働学部コミュニティデザイン研究室(須藤順研究室)

担当：准教授 須藤 順

〒780-8520 高知県高知市曙町2-5-1総合研究棟1階

TEL：088-788-8077 FAX：088-888-8043

E-mail：j.suto@kochi-u.ac.jp

Web：<https://www.communitydesign-kochi.jp/>

※本講座に関する問い合わせは上記までお願いいたします。

※本資料の無断での配布、外部組織や個人への配布・閲覧、及び二次使用は、固く禁止させていただきます。